

琉球・沖縄 年中行事 Q&A

お墓を造る時期について



●Answer
 沖縄市・コザ山 球陽寺 前任職
 帰依 龍照(きえりゅうしょう)



母が亡くなって数年たちますが、今も遺骨をお寺の納骨堂に預けています。健在の父や私たち兄弟は、早くお墓を造りたいと考えていますが、身内に年男・年女がいたら、その年にお墓は造れないと言われ、今に至っていません。また、厄年だけでなく、後厄の年も造れないとか、生まれ年は、身内のどのあたりまで気にかけるべきですか。家族が多いと、いつまでもお墓を造れないのでは?とも思います。

(匿名希望さん)



このご質問は、まさに私の腕の見せ所です(笑)。お任せください。一緒に解決していきましょう。お墓を造る時期は、地域や家庭によってさまざまですが、次の5つが代表的な考え方のようです。

- ① 亡くなられてすぐ。
- ② 四十九日までに。
- ③ 一周忌が終わってから。
- ④ 三回忌が終わってから。
- ⑤ 十三回忌、あるいは三十三回忌が終わってから。

本来、お墓はいつ造られても大丈夫です。しかし、沖縄のしきたりに詳しい先輩方のお話では、どこかにカリウンチケー(仮案内)で納骨している場合は、三回忌が終わってから造るのが一般的だということです。

もし三回忌の後では遅すぎると考えるなら、一周忌や四十九日の後に、早すぎると考えるならば、十三回忌や三十三回忌の後にお墓を造ればよいようです。

今回のご相談は、お葬式から数年が経過しているとのことなので、お父さまやご兄弟と相談して決めれば差し支えないと思います。

生まれ年を避ける方法

また、「どのあたりまでの身内の生まれ年を気にかけるべき?」とのことですが、まず、生まれ年と厄年についての考え方を説明しましょう。沖縄では、自分の生まれ年の干支と同じ干支の年は、厄年とされています。ご質問にある「年男・年女」「厄年」「生まれ年」はそのことを指しているのだと思われまます。

生まれ年を考慮するべき「身内」の範囲は、現代の一般常識からすれば、三親等くらいまでに当たる方々かと思われまます。ざっと説明すると、ご自分から見た「曾祖父・祖父・父母・兄弟姉妹・夫・子・甥姪・孫・曾孫」あたりまでとなり、厳密に言えば、兄弟姉妹の配偶者や甥姪の配偶者なども三親等に含まれます。これでは大変な人数になるので、最小限で言えば、「夫・子・孫」の生まれ年を避ければよいようです。

生まれ年=厄年だけでなく、その前後のメーヤク(前厄)・ナカヤク(中厄・本厄)・クシヤク(後厄)を避けるとなれば、一人につき3年はお墓が造れない期間となります。まさに「家族が多い」といつまでたってもお墓を造れない」ことになってしまいますね。

でも、ご安心ください。沖縄には、このような考え方を尊重した上で、次のような解決策があります。

- ① 本来の生まれ年は、還暦のみと考え、数え61歳の方以外は生まれ年と見なさない。「十干十二支」で生まれ年を見る方法です。今年の十干は「丙」、十二支は「申」で、「丙申(ひのえさる)」。
- ② 代表者である施主を決め、施主の生まれ年のみを避けてお墓を造る。
- ③ 故人の干支以外の干支の年にお墓を造る。
- ④ 「タナバタ(たなばた)は日なし」の考えから、グソー(後生)がお休みとされるタナバタの日(旧暦7月7日)にお墓を造る。
- ⑤ 「ユンジチ(閏月)は日なし」の考えから、ユンジチの年にお墓を造る(旧暦で13カ月ある年をユンジチの年と呼びまます。今回は平成29年、旧暦5月が2回あります。ユンジチは、新暦と旧暦の誤差を調整するもので、

19年に7回巡ってきます)。

今回のご相談では、「2」の考え方を採用されてはいいかがでしょうか? お父さまに施主になっていただき、もし、お父さまの生まれ年とお墓の建立のタイミングが合わないときは、ご長男に施主の代理を依頼するといった考え方もあります。あるいは、タナバタやユンジチの時期を選ぶと心強いですね。

匿名さん、現実には、これからお墓を造ることになります。お墓を造ったときには「お墓を造ったときにはすでにお墓を造ってあげたことになっていて聞きます。親孝行の思いは、きっとお母さまの心にも届いていることでしょう。

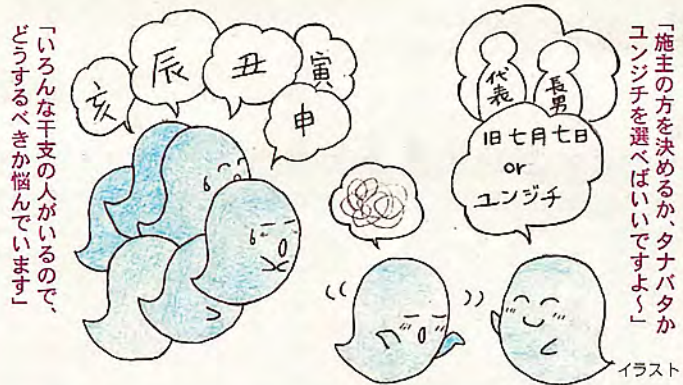


イラスト: 帰依ひろ子

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。